

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

北海道ソフトテニス連盟TVに『第27回全日本小学生ソフトテニス選手権大会男子個人戦決勝戦』のファイナルゲームのビデオがアップされました。ポイントカウント7-7の15ポイント目、レシーブミスでポイントが決まった後、レシーバーからサービスの順序が間違っていると質問され、正しい順序の選手が15ポイント目をやり直しています。副審の動きから見るとレットには見えませんが、タイムがかかっているようにも見えません。

私の認識では15ポイント目は有効で、16ポイント目に正しい順序のサーバーがサービスをして再開するものと思っていたのですが、どちらが正しいのでしょうか？

Answer

サービスの順序の誤りが発見された場合は、インプレー後であれば次のポイントから訂正する。それまでのポイントは有効とし、誤りに気づいてもインプレーではプレーを中断しない。

今回のケースは、競技規則第33条（サービスの順序又はサイドの誤り）第1項第2号から、質問者の思われた通りの適用で行うのが正しい対応です。

従って、15ポイント目までのポイントは有効で、16ポイント目に正しい順序のサーバーがサービスをして再開することが競技規則上正しい適用になります。残念ながらアンパイヤーの方（コート主任を含め）の競技規則の適用に誤りがあったこととなりますが、この様な緊迫した決勝戦、しかもファイナルゲームでのデュースの繰り返しで、とても緊張をしておられた様子が伺えます。

レシーバーのプレーヤーがサービスをするプレーヤーの順序の誤りに気づき質問されたと思いますが、アンパイヤーは、質問され“しまった”と思ったとたんに冷静さを欠き、判断能力を失い質問を受け入れてサービスのやり直しをさせてしまったのでしょう。

ベンチにいた指導者も“ええ？”と思ったと思いますが、勝つか負けるかの大事なポイントで、プレーヤーがアンパイヤーの指示に従って流れを作っているため、ベンチにいた指導者もアンパイヤーの言われるとおり受け入れざるを得なかったのでしょう。

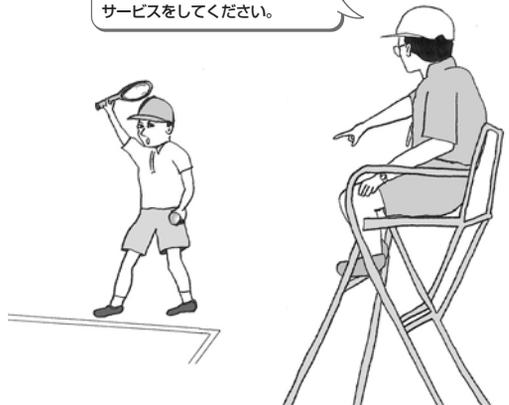
しかし、このような時こそ勇気が必要で、先ずアンパイヤーが冷静さを保ち、競技規則に従った進行役を務めて頂きたいのです。

競技規則第33条では「サービスの順序の誤りが発見された場合は、インプレー前であればそのポイントから、インプレー後であれば次のポイントから訂正する。それまでのポイントは有効とし、誤りに気づいてもインプレーではプレーを中断しない。」ことになっています。

ところで、やり直しを命ぜられたプレーヤー側から次のポイントに入るまでに、ベンチの指導者がプレーヤーに対応の誤りを指導され、プレーヤーからアンパイヤーに競技規則第40条に基き提訴されるとよかったですし、アンパイヤーはコート主任と相談され誤りに気付いたならば、プレー前か・それともインプレー中か・インプレー後なのか、状況によって決断を下されたらよかったです。

皆さんにお願いしておきます。質問があったら、一度プレーを止めて冷静に考える時間を作り、回答しましょう。

サービスをするプレーヤーが違いますね。さっきのポイントまでは有効ですが、正しい順序の選手がサービスをしてください。



【関連規則】

競技規則第33条（サービスの順序又はサイドの誤り） 競技規則第40条（異議の申立て等の禁止） 競技規則第43条（提訴）